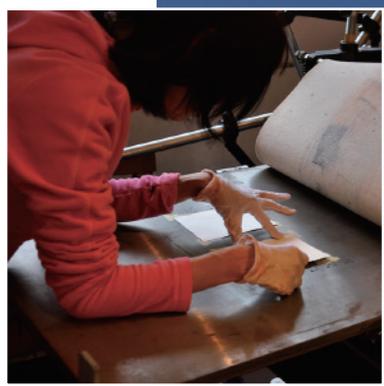


2017 版画プロジェクト報告

きっかけは大きな版画プレス機が3年ほど前に「油や」に運び込まれてきたこと。古書市場などでも版画が人気となっていたこともあり、作家さんに「油や」に滞在して、つまり「アーティスト・イン・レジデンス」で版画を制作してもらおうという話になった。「信州・信濃追分にちなんだ版画を作りませんか」と声かけを始め、2017年に長野県「元気づくり支援金」を得て資金面の工面もでき、6名の作家による版画制作が始動することになった。



Yoko IJIMA

銅版画インクの匂いと緑のささやきに
囲まれて油小僧と遊んでみました。



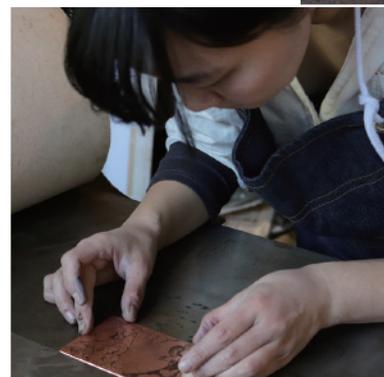
Taro ORAI

追分を愛した文人たちの息づかいを、
建物や文机に感じながら描きました。



Yu SUZUNURA

信州に移住してきて感じた心象風景です。



Kyoko OTSUKA

故郷とよく似た
信州の自然に惹かれています。



Jin NAKAMURA



縄文人は自分たちの住む
ロケーションを大切にしますね。

Masami YOSHIMURA



追分という分岐点には様々な物語が誕生し、
様々な「気配」が生じております。
そんな気配を集めてみたくなりました。

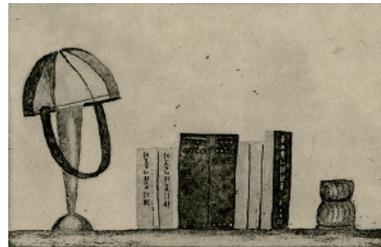


Taro ORAI オーライタロー

- 1963 宮崎県宮崎市生まれ
- 1988 武蔵野美術大学大学院油絵専攻修士
- 2002 銅版画を古茂杏子氏に師事
- 2014 おおらいえみことの夫婦ユニット
「生類製作所」として活動開始
- 2015 個展・日本橋ギャラリーーツープラス
- 2017 個展・吾妻橋ギャラリーアビアント
- 2017 生類製作所作品展・アートプロジェクト沙庭



「追分のよろずや」



「堀辰雄の机」

中学生のころ立原道造の詩が好きになった。いや正直にいうと永島慎二のマンガ「四畳半の物語」で主人公の男がそらんじる「ゆうすげびと」にやられた。『林を透いた青空に かうばしい光のまんなか』などという澄み切った世界は南九州でのほとんど生きる 15歳の小僧には想像もつかなかった。40年の月日が流れ、詩人が乗り降りしたかもしれない駅舎を描いて、詩人が歩いたかもしれない森のなかにその絵を並べることにしようとは！



「草軽電鉄デキ12形」



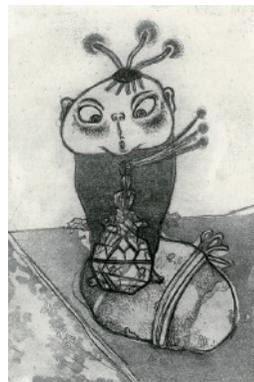
「信濃追分駅」

Yoko IJIMA 飯島洋子

- 東京渋谷区生まれ
- 1986 東京芸術大学大学院 美術研究科絵画科 (技法材料研究室) 修了
- 2001 デザイン事務所勤務を経て、制作活動再開
- 2003 「SEA SHEEP-2002 未来の記憶」・トキ・アートスペース
- 2005 「Cherry-2005」・ギャラリーEL・POETA
- 2009 「U-PLANNING 第1回展・4人の作家たち」・アートギャラリー CORSO
- 2011 ルーブル-DNP ミュージアムラボ
マルチメディアディスプレイのイラスト制作
- 2014 「ふたごのラン」・ART PROJECT 沙庭
- 2016 「Challenge Wall2016」・軽井沢ニューアートミュージアム
- 2018 「第2回 佐藤一郎とその仲間たち展・永井画廊」など



「油小僧／ぶんしんのじゅつ」



「ひかりあつめて」

恋が始まったのがいつだか思い出せないように、油小僧を意識し始めたのがいつだったか思い出せない。「油や」に滞在した翌日の早朝、追分の緑の風を心地良く感じながら「油や」の庭で遊ぶのは最高の歓びだった。その時、すでに油小僧と出会っていたのかもしれない。風の中に、小さな池の水面に、仰ぐ青い空の中に。油小僧は、忘れかけていた子ども時代のと看めいた冒険の記憶を呼び戻してくれる。小さな歓びを運ぶ油小僧。小さな歓び、うわあという歓びはいくつになっても深いところで今もちゃんと生きている。



「あきのにんじゅつ」



「おいけにドボン (風に吹かれて池に落ちたので)」

Kyoko OTSUKA 大塚杏子

- 1978 福島県本宮市生まれ
- 2001 日本大学芸術学部デザイン科卒業
- 2004 福島に戻り、銅版画を始める
- 2006 初個展 神楽坂アユミギャラリー
- 2009 個展、二人展等 下北沢アレイギャラリー
- 2011 長野県軽井沢町に移住
- 2018 絵画教室「ことりの絵画教室」開催
自然をテーマに版画（孔版、銅版）を制作

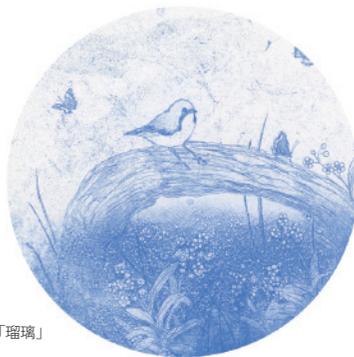
長野県軽井沢町に移住し数年、故郷とよく似た風景、食べ物、人に触れ合い、自分の中にそれらがどんどん蓄積されていくのを感じています。子ども達と歩く散歩道にみる鳥や動物達、見上げた空に大きく羽ばたく白鳥の羽音。美しい星空。それらの自然は次々と色々な表情を見せてくれます。日々の生活の、その豊かな自然を版に移し取りたいと制作しました。



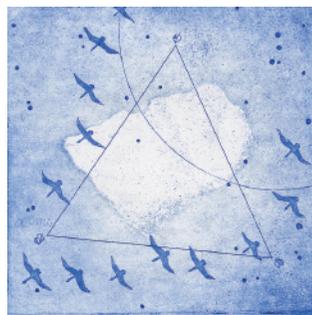
「Spring」



「Autumn」



「瑠璃」

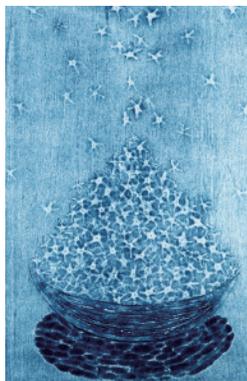


「WATARI_3 α」

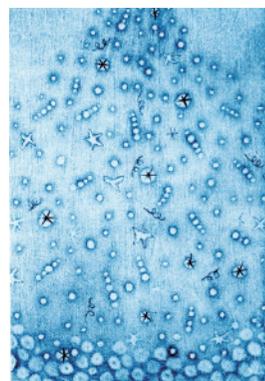
Yu SUZUMURA 鈴木優

- 1983 愛知県瀬戸市生まれ
- 2006 シェル美術賞
第31回全国大学版画展（買上賞）
- 2008 第5回池田満寿夫記念芸術賞
多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程 卒業
- 2013 長野県松代へ移転、「SHINKOJI」アトリエにて制作
- 2015 こどもアート教室「とことい」を開講
- 2017 六花亭ファイル 第7期
個展（東京、かわかみ画廊）'10 '12 '15 '17
- 2018 個展（油やART PROJECT 沙庭）

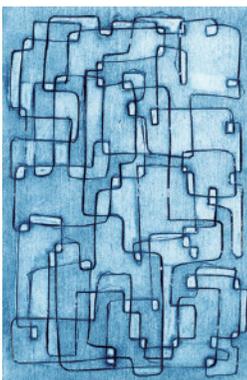
信州に移転して見える風景、感じる空気、時の流れ、人との距離や温度、多くのものが違っていました。それらをインプットして日々の変化を表現したくなる。信州は、私にとって表現の宝庫です。「たのしいゆき」は、信州で初めてみた大粒の雪の様子。「ほしのかき氷」は、信州の星空を集めてかき氷に。「せんのつながり」は、信州に来て人とのつながりをより感じて。「山頂に咲く」は、信州の山で初めてみる植物たちを私なりに解釈して表現しました。



「ほしのかき氷」



「たのしいゆき」



「せんのつながり」

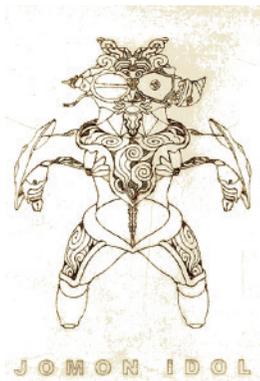


「山頂に咲く」

Jin NAKAMURA ナカムラジン

- 1959 長野県生まれ
- 1984 信州大学教育学部美術科工芸（鍍金）研究室卒
8th 日本グラフィック展協賛企業賞受賞
- 2006 TRIO DI ARTISTI DELLA MOSTRA D'ARTE CONTEMPORANEA（イタリア）
- 2012 アートフェア東京（有楽町アートフォーラム）
「現代作家茶碗特集」日本橋三越本店（東京）
- 2014 「偶像崇拜」Shonandai MY Gallery（東京）
- 2015 「仏のかたち展」ガレリア表参道（長野）
「画像宇宙」Space 563（台北）ART Monaco（モナコ）YIA Art Fair（パリ）
- 2016 「縄文アイドル」・浅間縄文ミュージアム
- 2017 「偶像寓意花鳥圖譜圖」日本橋三越本店（東京）など

4000～5000年前、八ヶ岳西側からはるか諏訪の湖を望む原生林におおわれた美しくならかな麓からはいずれも国宝になる土偶「縄文のビーナス」「仮面の女神」が発掘されている。軽井沢追分に近い浅間山麓・湯川の畔にも豊かな縄文文化が残されている。縄文人は美しいロケーションを選んで居を構えたい。そんな美的感覚に恵まれた人々によって象られた偶像＝アイドルを現代を生きる作家が当時の人たちの気持ちになってデザインしてみた。



「縄文 IDOL-01」



「縄文 IDOL-02」



「縄文 IDOL-03」



「縄文 IDOL-04」

Masami YOSHIMURA 吉村正美

- 1973年 長野県長野市生まれ
- 1998年 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了
- 2007年 長らくの隠遁生活からの制作活動再開
- 2013年 アワガミ国際ミニプリント展
シェル美術賞（保坂健二朗審査員賞）
- 2015年 東京国際ミニプリント・トリエンナーレ
個展・酒造真澄（長野）
- 2016年 個展「ブラック☆リムジン」FFS Lounge Gallery（長野）
個展「the watcher in the world」O ギャラリー UPS（銀座）
- 2018年 個展「吉村正美」O ギャラリー UPS（銀座）

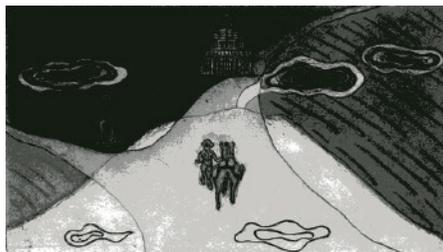


「二人連れ」



「三筋立つ」

追分宿全盛時の街道旅はさぞ過酷だったろうが馬子たちは、馬子唄を歌い歩いて旅の苦勞を癒した。いつの世も歌の力、創造の力というものは人の気分を高揚させ、前を向かせる力がある。そんな往時の人々の旅心に思いを馳せながら中山道と北国街道の分岐・信濃追分と浅間山というランドマークをモチーフに制作した。作品のタイトルに馬子唄の中の詞を引用している。雄大な浅間山を背景に、馬子衆のリズミカルな足音が聞こえてきたなら幸いだ。



「旅の空」



「浅間の煙」

2018

歴史回廊アートプロジェクト



HIROKO WATANABE © 書家。1974年より書始める。2012年書とJAZZの共演公演(愛知県芸術劇場)、2013年JAPAN OSAKA 招聘(ホーチミン)、Japanese Arts Selection in the LES, NYC 特別賞(ニューヨーク)、2014年JAPAN EXPO2014 招聘(パリ)、2014年南オーストラリア州立美術館 11点パーマネント(アデレード)、2014年 oz asia festival 単独公演(アデレード)、2015年 ART EXPO NEWYORK2015 招聘(ニューヨーク)、2016年 アジア創造美術展金賞、2017年 個展 MELCART GALLERY(パリ)、2017年 個展 SHOWA Boston university ロビーギャラリー(ボストン)、2017年 Art-athina2017 招聘(アテネ)。その他



KAMBAYASHI GAKU © 1946年東京生まれ。18歳で彫刻家を志す。1976年より、個展、グループ展、コンクールなどに作品の発表を開始する。<個展>ギャラリー21 1986~90年、うつわ菜の花(神奈川、小田原)1988年から毎年、ギャラリーオカベ(東京、銀座)1992~2018年、ギャラリーボテガ(イタリア、ルッカ)、その他全国各地で個展、グループ展、ワークショップを行っている。また、舞台装置、美術デザインも手掛けている。とくに、2013年より毎年、武蔵野美術大学・空間演出デザイン学科の学生に、ワイヤーを材料にして人体像を制作するワークショップを行っている。

遊座 アーティストワークショップ

8/3 (金)

ワイヤーワークで人体制作に挑戦! (講師: 神林 學)

いろんな太さのワイヤーを使って子どもから大人まで楽しめる人体作りに挑戦します。筋肉や関節の仕組みを考えながら人間のカラダの面白さを体感しつつ一人一人小さな彫刻作品を仕上げます。

●参加費: 無料(長野県地域発元気づくり支援金活用事業)

定員: 20~30名程度(対象: 小学生以上) / 時間: 13:00~16:00 / 場所: 油や新館「阿房文庫」

8/18 (土)

一字書を書く ランプシェードの制作 (講師: 渡部裕子/書家)

油やゆかりの詩人立原道造が紡ぎ出す言葉の中から漢字一字を選び、一字書を制作(一字、もしくは四面に四字)。ランプシェードに貼って仕上げます。

●参加費: 無料(長野県地域発元気づくり支援金活用事業)

定員: 10名程度(対象: 中学生以上。難破性、防炎性を兼ねたワーロン紙、電池式簡易ランタン等の材料はこちらで用意いたします)

時間: 13:00~15:00 / 場所: 油や新館「阿房文庫」

*墨を使用しますので汚れても良い服装でお越しください。

8/19 (日)

感情を書くとめ・はね・てんの作品作り (講師: 渡部裕子/書家)

油やゆかりの詩人立原道造が紡ぎ出す言葉の中から感情を読み取り、とめ・はね・てん・はらい など、文字そのものではなく、文字を形成する部分を書き、一枚の作品としてまとめます。

●参加費: 無料(長野県地域発元気づくり支援金活用事業)

定員: 10名程度(対象: 中学生以上。額装用簡易フレーム等の材料はこちらで用意いたします) / 時間: 13:00~15:00 / 場所: 油や新館「阿房文庫」

*墨を使用しますので汚れても良い服装でお越しください。

作家公募のお知らせ

アーティスト・イン・レジデンスによる浅間山麓三十六景プロジェクト

信濃追分文化磁場油やに滞在し、「油や」の版画プレス機を使用して版画作品を制作してくれる作家を毎年募集しています。

時期/毎年5月~10月 場所/信濃追分文化磁場油や(油や Stay)

テーマ/信濃追分周辺の歴史、文化、自然、風景など 作品/葉書サイズ4種、各30枚

制作費/材料費・交通費として一定額(20万円+税)を支給 滞在費/滞在費は無料(除く食費)

※詳細は電話(0267-31-6511)、HP(<http://aburaya-project.com>)からお問い合わせください。

昨年スタートした版画プロジェクトに加え、創作する作品群の多様化を目指し、新たに今年開始するのが歴史回廊アートプロジェクト。「文化地場油や」の廊下と部屋を現代アートの展示場所として演出。地域住民や一般来館者に広く開放し、作品を楽しめる場所にする。今年度は東京から神林學氏、名古屋から渡部裕子氏を招聘し、油や回廊 Art Project 沙庭ディレクターでありアーティストのナカムラジーン氏がコーディネートを担当。2名の招聘作家は油やにレジデンスしながら現場で制作する他、制作期間中、近隣住民や来館者を対象とした無料のワークショップを開催する。